

奈良県をめぐる情勢の変化と交番・駐在所の最適化

奈良県をめぐる情勢の変化

少子高齢化の進展

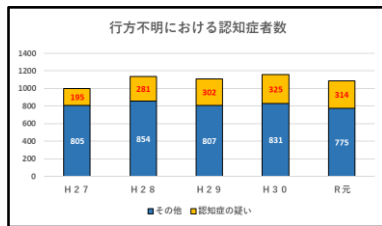
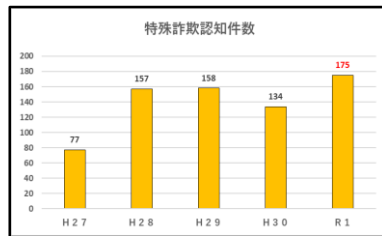
- 平成30年の奈良県の15歳以下の人口割合が約12%であるのに対して、65歳以上は約30%です。
- 奈良県の人口は、今後20年で約2割減少する見込みです。

県民等の生活形態の変化

- インフラの整備、24時間営業店舗の増加、携帯電話の普及等により、県民の生活形態が変化しています。

治安情勢の変化

- 特殊詐欺事件や認知症高齢者の行方不明事案等が増加したほか、県内で交番襲撃事案も発生しました。



交番・駐在所の最適化の必要性

- 治安情勢等の変化により、昼夜を問わず、複数の警察官の対応が必要になっています。
- 都市化等の社会情勢の変化に伴い、既設交番・駐在所の配置が十分かつ合理的でない地域があります。

交番・駐在所の最適化の必要性

交番・駐在所の最適化

将来の人口動態を見据えた管轄の見直し等による施設の適正配置

目的（コンセプト）

社会・治安情勢の変化に適切に対応するため、交番・駐在所の配置について最適化を図り、地域警察官がより柔軟かつ重層的に活動することにより、奈良県内の治安水準を維持・向上させます。

考え方

- 都市部には交番を配置します。
 - ・ 交番・駐在所の受持区域を見直し交番化することにより、夜間の事案対応や交番のセキュリティを強化します。
- 山間部の駐在所の配置箇所を見直します。
 - ・ 地域の特性（道路事情、人口等）や警察署からの距離を考慮して見直します。
- 各自治体に最低1警察施設を維持します。

交番・駐在所の最適化

※ 情勢の変化に伴う不断の見直しを実施していきます。

複数の警察官で勤務することにより「在所」と「パトロールの強化」を両立させる等、重層的な地域警察活動が展開可能になります。

